

# もって乗って！ 滝西直行バス

## 滝川駅→滝西前 滝西生のために赤字覚悟の運行



運行状況や思いを語る西島さん

12月12日（金）、滝川駅から滝西の校舎前に向かう直通バスの試乗会が行われ、新聞局と放送局が参加した。バスのラッピングデザインは滝西の美術部が担当し、車内放送は滝西の放送局が担当するなど、滝西生の関わりが多いバスとなっている。バスに実際に乗ったあと、支えてくれている方々の話を聞いた。

滝川市総務部企画課の西島建志さんによると、近年の深刻な運転手不足や乗客の減少によって廃止されるバス路線が増える中で、この冬、滝西直行バスの運行を中央バスから滝川市が引き継いだそうだ。今後、どう路線を維持していくかが課題だと話してくれた。

現在、滝西への直行



【担当】  
朝岡 萌衣 (2B)  
小宮山 美和 (2A)  
本間 優斗 (2C)

バスの利用者数は、晴れの日だと数人、雨や雪などの悪天候の日でようやく二桁にいく位という状況で、運営側としてはまだまだ利用者を増やしたい考えだ。西島さんは「通学する滝西生の足が無くならないように、赤字を覚悟で運行させているため、この路線が無くならないように生徒の皆さんには是非、これからもつと利用してほしい」と語った。

親しみやすい雰囲気、放送局の声でも実現

西島さんによると、滝西生に乗りしてもらい、ことから、高校生が親しみやすい雰囲気を作りたいという狙いのもとで、車内放送は滝西放送局に依頼することになったそうだ。

実際にアナウンスを担当した放送局員に話を聞いた。収録は、用意された原稿をもとに滝西の放送室で行われ



非常ブレーキの説明をする千葉さん

### 工夫された車内 安全で快適

#### 乗客用非常ブレーキも搭載

車内の仕様に、空いて、中央バス株式会社、知中央バス、ス株式会社、社滝川営

業所 副所長の千葉雄介さんがわかりやすく説明してくれた。まず乗降口はノンステップになっており、乗り降りしやすいようになっている。入ってすぐのバスの中央の部分は、通常の座席を収納して車椅子スペースとして利用することができ。さらに、運転席のすぐ後ろに



車椅子スペースも完備

は非常ブレーキのボタンが備えられていて、運転手さんに万が一のことがあった時に、乗客が誰でも押すことができる。



アナウンスを担当し、バスに試乗した放送局の皆さん

た。鳥羽優花さん（2E）は、自分のアナウンスを車内で客観的に聞くと「滑舌が甘いと

お話を聞いて、滝西生のためのバスだということを実感しました。感謝の気持ちを忘れず、これから機会があればぜひ積極的に利用していきたいです。

（小宮山）

自分たちが地域の多くの人に支えられていることを実感しました。このバスに関わっている方々への感謝の思いが湧き上がりました。

（朝岡）

### 編集後記

今回の取材を通して、普段滝川駅からバスに乗って滝西へ登校する生徒にも、あまり利用していなかった生徒にもぜひ関心を持ってバスを利用してほしいと思いました。

（本間）

感じた」、大竹日向子さん（2C）は、実際に聞いてみて「不思議な気分になった」とのこと。また矢守葉さん（2C）は「自分の声をバスの中で聞くことに特別感を感じた」と話してくれた。